

第3回日本 DCD 学会 学術集会  
(ウェブサイト用抜粋記録)

学会テーマ 明日からできる不器用さのある子へのアプローチ  
会期 2019年4月13日(土曜日)・14日(日曜日)  
会場 長崎大学医学部記念講堂  
大会長 岩永 竜一郎(長崎大学生命医科学域)

主催 日本 DCD 学会

## 大会長挨拶

この度、第3回日本DCD学会を長崎で開催する運びとなり、大会長を仰せつかりました。

発達性協調運動症(DCD)は、神経発達症の1つであり、5-6%の子どもに見られるとされています。それにもかかわらず、これまで他の発達症に比べると注目されていなかったと思います。DCDは神経学的問題が背景にあるとされ、学習、社会適応、就労など様々な場面でその特性が適応困難を引き起こし、精神医学的問題が併存することが少なくありません。そのため、DCDについて医療、教育、福祉、保健、労働などの様々な専門家が理解を深め、支援を進めていく必要があるでしょう。

DCD児者に対しては、様々な教育、治療介入、支援、研究が展開されることが望まれますが、本大会ではDCD児に対する療育や生活支援に着目し「明日からできる不器用さのある子へのアプローチ」というテーマを掲げました。DCD児の毎日の生活の工夫や保育・教育、療育に着目したテーマです。

DCD児に対する医療、教育の中での治療・教育的介入、児童発達支援センター・事業所などの機関での療育は、これから活発になっていくことでしょう。また、家庭や保育園、学校での支援もより層進められるでしょう。その際にDCDに関する正しい知識と的確なアセスメント、そしてより効果的な療育アプローチ、的確な支援が必要になります。そこで、本大会では協調運動のアセスメントであるM-ABC2に関するお話を日本版M-ABC2の標準化を手掛けておられる中井昭夫先生に、DCDに対する治療介入に関して介入のエビデンスレベルが高いことで知られている日常作業遂行のための認知的オリエンテーション(CO-OP)を開発したHelen Polatajko先生に、日常生活や学校での効果的な取り組みについて鴨下賢先生からご講演をいただきます。そして、当事者の立場から笹森理絵先生、教師の立場から赤星秀典先生、就労支援・言語聴覚士の立場から赤壁省吾先生、作業療法士の立場から加藤寿宏先生にお話をさせていただきます。

いずれの内容も療育、医療、教育に関わる支援者、家族にとって役立つ情報となると思います。本大会が多くのDCD児者の毎日を明るくすることにつながれば幸いです。

第3回日本DCD学会学術集会大会長  
岩永 竜一郎（長崎大学生命医科学域）

## 大会プログラム概要

**大会長講演** 4月13日(土) 13:45-14:45

DCDと療育

岩永竜一郎(長崎大学生命医科学域)

座長:七木田敦(広島大学大学院教育学研究科)

**特別講演** 4月14日(日) 9:00-10:30

From practice to research and back again: Addressing the needs of DCD children

Helen J. Polatajko (University of Toronto)

座長:岩永竜一郎(長崎大学生命科学域)

通訳:奥村安寿子(国立精神・神経医療研究センター)

北 洋輔 (国立精神・神経医療研究センター)

**教育講演 I** 4月13日(土) 14:45-15:45

日常生活・教室で生きる不器用さのある子への支援

鴨下 賢一(フリーランス)

座長:土田 玲子(NPO 法人なごみの杜)

**教育講演 II** 4月13日(土) 16:00-17:00

協調をアセスメントする意義~Movement Assessment Battery for Children, 2nd Edition (M-ABC2)を用いた臨床研究と日本語版の開発~

中井 昭夫(武庫川女子大学)

座長:柏木 充(市立ひらかた病院)

**シンポジウム** 4月14日(日) 10:45-12:30

明日からできる不器用さのある子へのアプローチ~それぞれの立場から~

シンポジスト

笹森 理絵(社会福祉士、精神保健福祉士)

赤星 秀典(小学校教諭・長崎県小学校体育研究部副部長)

赤壁 省吾(言語聴覚士・就労移行支援事業所ワークステーション未来)

加藤 寿宏(作業療法士・京都大学大学院医学研究科)

座長:辻井 正次(中京大学現代社会学部)

**一般演題（口述 I）** 4月14日（日）14:00-14:30

座長：澤江 幸則（筑波大学体育系）

**一般演題（口述 II）** 4月14日（日）14:35-15:05

座長：片桐 正敏（北海道教育大学旭川校）

**一般演題（ポスター）** 4月14日（日）13:30-14:00

**プレコングレス** 4月13日（土）9:00-12:00

日本版感覚プロフィール研修会

発達障害の感覚処理特性に関するアセスメントと支援～感覚プロフィール・シリーズ～

萩原 拓（北海道教育大学特別支援教育分野）

## 一般演題名

### 一般演題（口述 I）

4月14日（日）14:00-14:30

- Sensory Profile における DCD 児の感覚特性
- 就学前の DCD 早期発見のためのチェックリストの完成
- 非定型的な運動様式を呈する乳幼児の実態調査

### 一般演題（口述 II）

4月14日（日）14:35-15:05

- DCD 特性のあった未就学児を対象とした週1回の頻度による課題志向型アプローチをベースとした運動プログラムの効果に関する事例研究
- 注意欠如・多動症を持つスポーツ選手について
- 発達性協調運動症の発達機序についての家森の仮説を証明する試み第1報；過去の自らのデータによる考察

### 一般演題（ポスター）

4月14日（日）13:30-14:00

- 不器用さを呈する学習障害児への作業療法士による学校コンサルテーション：事例報告
- 眼球運動の主観的疲労感が消失した発達性協調運動症児の一症例
- 発達性協調運動障害の可能性を有する児の手指巧緻性に対する閾値下振動触覚ノイズ装置の即時効果
- 箸ってこんな風に持つんだ！！～知覚探索に着目して～
- 一人一人が輝く少年柔道指導法のワークショップ開発の試み～DCD を含む運動の苦手な子どもを対象として～
- 不器用さがある ASD 児に対する Cognitive Orientation to daily Occupational Performance (CO-OP) を用いた長期的な介入実践
- DCD 児における Vineland-II 適応行動尺度の特性
- 定型発達児の線切り課題におけるハサミの使用法とはみ出し幅
- 5歳における発達性協調運動障害児の筋力
- 学童期 DCD 児に対する作業療法の効果

### 第3回日本DCD学会学術集会 実行委員組織

大会長 岩永 竜一郎（長崎大学生命医科学域）

顧問 土田 玲子（NPO 法人 なごみの杜）

実行委員長 東恩納 拓也

#### 事務局

事務局長 東恩納 拓也  
メンバー 坪井 天音 鎌下 莉緒 鴨川 拳

#### プログラム委員会

委員長 日高 欣哉  
メンバー 増本 利信 原田 洋平 岩永 裕人 野田 遙

#### 会場運営委員会

委員長 徳永 瑛子  
メンバー 萩田 優一 立石 尚 山南 藍 大久保 早希  
江頭 雄一 古賀 夏未 小田 和徳 高石 美穂子  
飯田 珠緒 中路 敦 三根 侑祐 柳田 ふみの  
川合 郁美

#### レセプション委員会

委員長 前田 航大  
メンバー 山口 泉美 梶原 由里

#### 運営協力

NPO 法人 なごみの杜  
長崎大学医学部保健学科学生